

1 全体計画

学校の教育目標

愛 知恵と命を愛する人 誠 誠実さと真心を大切にする人 剛健 心と体をきたえる人

令和年度学校経営方針

明るい学校 わかりやすい教育（誤解のない教育）

本校の捉える「確かな学力」

基礎的・基本的な知識や技能、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの幅広い学力

令和元年度の指導の重点

<各教科>

- ・学力調査等を活用して、自校の課題を的確に把握し、その解決を図る。
- ・「考える」「学び合う」「やってみたくなる」いう3段階で1時間の授業を組み立て、指導内容を明確化する。

<総合的な学習の時間>

- ・課題の設定をし、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を重視した学習過程を単元・授業の中で繰り返し設定し、主体的に問題を解決する資質や能力を育てる。

<道徳>

- ・道徳教育の「要」としての役割を踏まえ、特別の教科「道徳」のスタートにより、さらなる指導方法を工夫し、適切な評価を目指すとともにによりよく生きるための基盤となる道徳性の育成を図る。

<生活指導>

- ・規律ある生活態度の中で、基本的な生活習慣を身につけ、児童自らが考え、判断し行動できる態度を育てる。

<特別活動>

- ・児童による自主的・実践的な活動が充実するよう指導内容の重点化を図り、指導方法を改善する。縦割り班活動を新設し、高学年をリーダーとした異学年交流を行う。

<進路指導>

- ・児童が自らのよさや能力、適性を把握し将来への夢や将来への夢や希望、生きがいをもって生活できるよう指導する。外部講師を活用し様々な人の生き方を知らせる。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・言語活動を充実させ、思考力や判断力とともに、表現力を伸ばす。
- ・算数科において、低学年から習熟度別に応じた指導に加え、区の教員をT2として活用してさらにきめ細かい指導を行う。

教育課程編成上の工夫

- ・行事を精選し、授業時数の確保をする。
- ・第八中学校区3校（八中、西中野小、鷺宮小）の連携を生かした学習、行事の追求を図る。
- ・朝の時間を「繰り返し学習」「読書」「音読」の時間として活用する

評価の工夫

- ・指導と評価の一体化のため、単元や各時間の目標を明確にして、授業に臨む。
- ・区・都・国の学力調査の結果を分析し、傾向や課題から授業改善を行う。また個別指導や放課後学習、夏期学習教室をとおして到達度の低い児童への支援を行う。

校内研究・研修の工夫

- ・管理職による授業観察と指導
- ・小中の連携をとおり「自己肯定感を高める指導」、キャリア教育を柱に、「主体的な学び」「学び合い」「伝え合い」に重点を置いた授業を行う。

家庭・地域との連携の工夫

- ・HP等のこまやかな情報の発信と説明責任
- ・保幼小中の連携
- ・地域や外部の人材の活用
- ・家庭と連携した、子供たちの「自学」を推奨する。（学校図書館を活用した水曜日放課後の「鷺寺」と夏休みの自習活動「夏寺」）

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・放課後学習教室において学力定着の必要な児童を取り出し丁寧に指導することにより学力向上を図る。
- ・算数少人数担当と協同し始業前の学習時間を活用した学習プリントの作成および事後指導にあたる。

ALTの活用の工夫

- ・学級担任と協同してネイティブの発音を生かし外国語の学習指導にあたる。
- ・ALTが入らない授業においても教材の活用方法を支援するなど学級担任のサポートをする。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

国語科では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てること」を重視している。

「国語による表現力と理解力の育成」と「思考力や想像力及び言語感覚を養う」の2つの国語の根幹となる目標を基に、最終的には「国語を愛護し、尊重して、国語そのものを一層優れたものに向上させていこうとする意識や態度を育てる」ことが目標とされている。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の話や友達の発言を静かに聞くことはできる。 ●相手を見て正しい姿勢で聞いたり、終わりまで集中して聞いたりすることは不十分である。 	<p>大事なことを落とさないように集中して聞いたり、考えながら聞いたりする力をつける指導が必要である。</p>	<p>話し手の顔を見て、伝えたいことは何かを考えながら、話を最後まできちんと聞く態度を身に付けさせる。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語についての知識・理解・技能」は、9割が目標値を達成している。 ●文を読み取る力、問題文を読み取る力等の「読解力」を伸ばす必要がある。 	<p>「読む」の文章の内容を正確に理解できるよう指導する必要がある。 また自分の考えが明確になるように文を「書く」力を育てる必要がある。</p>	<p>簡単な文章の読解の学習を行い、その都度内容の読み取り方を確認する。文を書く機会を増やし、文を書くことに慣れさせる。それと共に読書量を増やし、文章に触れる機会を増やす。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語についての知識・理解・技能」は、9割以上が目標値を超えている。 ●「話す・聞く」は区平均を下回っている。 	<p>「話す・聞く」「読む」の力をつける指導が必要である。</p>	<p>大事なことは何か考えながら聞く力を身に付けさせる。結論を述べてから理由を話す力を身に付けさせる。 物語文や説明文では、文章全体のつながりをとらえた読み取りを進めていき、課題の改善を図る。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く」能力は、区目標値を達成している。 ●「話す・聞く」「読む」「言語」で達成率は7割に満たなかった。 	<p>「話す・聞く能力」「読む」「言語」の力をつける指導が必要である。</p>	<p>学習形態やワークシートを工夫し、自分の考えをまとめたり、話したりする力を身に付けさせる。漢字学習や意味調べなどを行い、改善を図る。</p>
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○「関心意欲態度」以外は、達成率7割以上で区目標値を上回っている。 	<p>「話す・聞く能力」の力をつけるよう指導する必要がある。</p>	<p>国語外の授業でも発表する機会を増やしたり、話し合い活動を多く取り入れ、課題の改善を図っていく。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○区の学力調査の結果から「読む」以外は、区目標値を超えている。 ●「読む」が低い。 	<p>「読む能力」「話す・聞く能力」の力をつけるよう指導する必要がある。</p>	<p>文学作品や説明文を指導する際個々の読み取りをする時間を確保し、それを全体で共有し読み取りの内容を確かなものにする。 授業の中で話し合いをする時間を確保する。</p>

(2) 社会科

社会科の重点

今年度も問題解決的な学習をより一層充実させていく。

導入段階では、学習問題を立てる際の資料の精選をし、児童の興味関心を十分に引き出していく。そして、学習問題の予想と学習計画を立てることで主体的な学びへとつなげていく。調べる段階では、ゲストティーチャーを招き話を聞くだけの活動から、質問をすることを大切にして学びを深めていく。また、比較できる資料の活用を行うことを通して、資料を読み取る力をはぐくんでいく。さらに、学習隊形の工夫や少人数での話し合いを意図的に取り入れ、考えを広げたり深めたりしていく。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<p>○地域を見学する活動を通して、調べたことをもとにして考え、問題を解決するという学習の進め方が分かってきた。</p> <p>●まだ思考や判断の仕方が浅い。</p>	<p>社会的な事象の捉え方や、そこからの思考の仕方を深め、よりよい意見に気付いたり、自分の思考・判断をより高められるようにする。</p>	<p>児童相互の意見交換や話し合い活動を授業に取り入れる。また、自分の考えを詳しく記述したり、整理したりすることができるように、ワークシートを活用したり、社会科新聞にまとめたりする。</p>
4年	<p>○東京都の学習を通して、調べたことをもとにして考え、問題を解決するという学習の進め方が確実にできるようになってきた。</p> <p>●思考や判断の浅さや表現方法に工夫が必要。</p>	<p>社会的な事象の捉え方や、そこからの思考の仕方を深め、よりよい意見に気付いたり、自分の思考・判断をより高められるようにする。様々な表現の工夫を知る。社会的事象の意味を考えられるようにする。</p>	<p>資料を読み取る視点を示し、個人の考えを確実にもたせてから、少人数での話し合い活動を行うようにしていく。その中で、「思考・判断・表現」の力を身に付けさせていく。</p>
5年	<p>○校内評価規準に対して、「知識・理解」と「技能」においては、概ね目標値を上回っている</p> <p>●「思考・判断・表現」は下回っている児童の割合が多い。</p>	<p>学習問題に対する問題意識のもたせ方を精選する。さらに、資料を関連付けて考えることを指導していく必要がある。</p>	<p>資料の精選を行い、児童に興味関心をもたせるとともに、学習問題の予想を丁寧に行うことで、問題解決の意欲を高める。</p> <p>資料同士を関連付けて考えさせる活動では少人数での話し合いを取り入れ、集団で解決させるようにさせる。</p>
6年	<p>○区の学力調査の結果から、観点別正答率において「思考判断表現」で目標値を超えている。</p> <p>●全ての観点別達成率で区の平均を下回っている。</p>	<p>社会的事象の具体的知識の定着が課題。また、資料から読み取れる社会的事象の意味を考える力を身に付け、思考判断表現力を高める必要がある。</p>	<p>毎時間獲得させたい知識を明確にし、1時間のまとめで確認をしたり、1単位時間の導入の際には、前時で獲得した知識の振り返りを行っていく。</p> <p>また、少人数での話し合いを意図的に取り入れ、児童相互で考えを深められるようにしていく。</p>

(3) 算数科

算数科の重点

算数科では、児童が、数量や図形に関する基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けること、また、それらを用いて、日常の事象について自ら考え、問題を解決し、相手に分かりやすく伝えることができるようになることを重点とする。

そのため、少人数・習熟度別学習集団による個に応じた指導を充実するとともに、指導と評価の一体化を目指した授業力の向上を図り、問題解決的な学習を重視した授業づくりをし、展開していくようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○基本的なたし算やひき算などすることができる。</p> <p>●文章を読み、式を活用して問題に取り組む力が低い。</p>	<p>課題に対して、どのように解決していくか思考し、表現する力を指導していく必要がある。</p>	<p>問題提示の仕方を工夫し、どのように問題を解決していくか児童と一緒に解決していくような授業をしていく。また、自分の考えたことを表現できる場面を増やし、指導していく。</p>
2年	<p>○すべての観点で区平均を超えていた。</p> <p>●計算などの技能は身につけているが、時計や大きな数のしくみ、長さや水のかさの理解が不十分である。</p>	<p>時計のしくみや大きな数の構成、長さや水のかさの量感や単位換算等「数学的な考え方」や「数学的思考」を伸ばす必要がある。</p>	<p>時計や長さ等、普段の生活と結びつけながら継続的に指導する。友達の解答から考え方を考えさせる。具体物を使う考え方も大切であるが、そこから抽象化して考える方法を学ぶ授業を増やす。</p> <p>放課後学習教室や少人数指導を活用し、個別指導を充実させることで、理解の定着を促す。</p>
3年	<p>○すべての観点で区平均を超えていた。</p> <p>●「活用」において、表現力が低い。</p>	<p>問題解決型の授業を展開するとともに、問題解決の過程を説明できるようにする必要がある。</p>	<p>問題解決の過程を説明し合う場面を設定する。</p> <p>児童が自分の考えをノート等に記述するよう指導する。</p>
4年	<p>○どの項目も去年に比べて大きく伸びた。特に、「考え方」と「技能」は区平均を上回った。</p> <p>●「関心・意欲・態度」と知識・理解は伸びてはいるが区平均より下回っている。</p>	<p>児童が興味・関心を持ち、自ら課題を解決するための授業をしていく必要がある。</p>	<p>問題を解決する手がかりとして前時の学習内容を振り返る時間を確保する。また、問題を解決するための計画を全体で確認し、児童が見通しをもって活動できるよう指導する。</p>

5年	<p>●去年に続き、どの項目も区平均を下回っている。</p>	<p>特に、「数量や図形についての知識・理解」が、昨年から33%大きく下がっている。学年としての課題にする必要がある。</p>	<p>学習内容や自分の考えをノートに記録できるように「ノート指導」の充実を図れるようにする。そして、個別に指導・評価していくようにする。</p> <p>問題解決の方法を学年担任と連携し、比較・検討する時間を設けるようにする。</p>
6年	<p>○すべての観点において、昨年と比較すると大きく伸びている傾向にある。</p> <p>●H30年度からH31年度まで、区の平均を下回り続けている。</p>	<p>特に、「数量や図形についての技能」が区の平均より7.5%低い。この観点を伸ばす必要がある。</p>	<p>1～5年生までの算数用語を正しく使えるよう振り返りながら、概念をまとめていくようにする。</p> <p>作図、立式、計算など、ノート記録に個々の工夫を意識させるようにする。また、学習のまとめを児童の言葉や算数用語でまとめるようにする。</p>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・学級担任と少人数指導担当が習熟度別クラスにおける児童の実態、学習内容、指導法について細やかな打ち合わせをする。
- ・授業中や放課後、業間においてとくに支援が必要な児童に対し任期付短時間勤務教員が細やかな指導にあたる。
- ・少人数指導担当と任期付短時間勤務教員が児童の実態に応じた教材準備、指導法の研究にあたる。

(4) 理科

理科の重点

理科の学習では、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てること。自然について実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことが求められている。特に、児童一人一人が「諸感覚を働かせながらの体験」「見通しをもった観察、実験」「観察、実験などの結果を整理、考察、表現」する活動を通して学習を深めることを重視している。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<p>○関心・意欲が高い児童が多い。</p> <p>●単元ごとのワークテスト等の結果を見ると、「思考・判断・表現」の達成率が低い。</p>	<p>予想や考察をするときには、既習内容や生活経験と関連付けて考え、根拠を示すことができるように指導する必要がある。</p>	<p>実験結果から結論を導き出す過程を重視した指導を行う。実生活で生かされている具体例を示し、関連付けて考えさせることで改善を図っていく。</p> <p>実験の仮説・方法・結果・結論を分かりやすくまとめられるようにノート指導を行う。</p>
4年	<p>○理科学事象に興味関心をもって学習に臨む児童が多い。</p> <p>●実験結果を基に考察し、結論を導き出すことに難しさを感じている児童が多い。</p>	<p>問題に対する単純な予想はできるが、既習内容や生活経験と関連付けて考え、根拠を示すことが難しいので丁寧に指導する。実験結果と結論の違いや、考察する際のポイント等、問題解決学習を進めるための学び方を理解させる必要がある。</p>	<p>考察の書き方を指導し、実験結果後に考察をさせる習慣を付ける。また、意図的計画的に関連する既習内容を振り返りながら授業を進めることで予想や理由、考察をする手立てとする。</p>
5年	<p>○校内評価規準に対して、「知識・理解」と「技能」においては、概ね目標値を上回っている</p> <p>●「思考・判断・表現」は下回っている児童の割合が多い。</p>	<p>実験結果に対する考察を書くことについて具体的な例をあげて指導する必要がある。</p>	<p>考察時に何を考えたり、何を比較すればよいか考える視点を示したり、考察名人カードを活用し、丁寧な指導をしていく。</p>
6年	<p>○区の学力調査の結果から、「思考・表現」「観察実験の技能」が区の達成率を越えている。</p> <p>●区の学力調査の結果から、「知識・理解」の達成率が低い。</p>	<p>「知識・理解」の達成率が低いことから、科学用語を正しく理解させることができていなかったり、科学的事象の原理を理解させることができていなかったりしている。</p>	<p>学習で出てくる用語の意味を説明して、正しく理解させるようにする。また、単元の終わりにはまとめの学習として、知識・理解を問うプリントなどを活用して、知識・理解を深めることができるようにする。</p>

(5) 生活科

生活科の重点

生活科の学習では、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うこと」が求められている。

鷺宮小学校では、特に「児童が自然や生き物と触れ合い、季節を感じる活動や体験の充実」を図ることで、充実感、達成感、自己有用感、一体感などを感じ取ることができるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○日々のアサガオの世話やトウモロコシの皮むき体験、季節の自然観察など、身近な自然と自分との関係に興味・関心をもつことができた。</p> <p>○観察カードにアサガオの成長を記録することができた。</p> <p>○その季節に見られる自然のものをカードに記録することができた。</p> <p>●自然や生命と触れ合ったり、日本の年中行事に親しんだりした経験に差がある。</p>	<p>観察の際、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚でじっくりと感じ、そこから気付いたことが反映できるよう観察のポイント(視点)やかきかたの例を具体的に示す。</p> <p>それぞれの季節に見られる自然のものや行事、変化について意図的・計画的に気づかせたり、知らせたりするようにする。</p>	<p>身近な植物の観察を続け、動植物と触れ合う機会を多く取り入れる。</p> <p>身近な自然を利用した遊びを体験させ、面白さや不思議さに気付くことができるよう、長期の休暇に「生活チャレンジカード」を活用して、意図的に生活経験が増す機会を設定する。</p> <p>季節の行事や自然、変化に自然と気づけるよう、それぞれの季節をカードにまとめる活動を取り入れる。</p>
2年	<p>○2年生として、1年生のために、目的意識をもって「学校たんけん」等の学習に大変意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○ミニトマトや大根、ダンゴムシなど、具体的な育て方やお世話の仕方を学び、愛情をもって意欲的に取り組むことができた。</p> <p>●実生活の中で、植物や生き物などと触れ合う経験がまだまだ少ない。</p> <p>●観察対象を丁寧に観察し、気づくことはできているが、それを観察カードへ表現することが難しい。児童による差が大きい。</p>	<p>身近な自然を中心に、季節ごとに自然と触れ合う場を設ける必要がある。</p> <p>観察対象の細かい部分や色、手触り、においなどを注意深く観察することはできているが、そこから気づいたことを文や絵に丁寧に表すことが難しく、その表現力に課題がある。</p>	<p>校庭や教材園の植物や飼育小屋の動物との観察や触れあい、実際に野菜や昆虫を育てることで生き物と触れ合う機会を多く設定する。</p> <p>観察の際、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚で一人ひとりがじっくりと感じる時間を意図的に設定する。具体的な表現方法を提示したり、教師が見本を見せたりすることで、表現の仕方を身に付けさせる。友達の観察カードを見合う時間を設けたり、教師が紹介したりする中で、より良い表現方法について学ぶ機会を設ける。</p>

(6) 音楽科

音楽科の重点

表現及び鑑賞の活動を通して、児童が音楽に対する感性を働かせ、生き生きと取り組むことが出来るようにする。そして、互いに尊重し、協調したり協力したりしながら子供たちが共に学び合い、自分の良さに気付き、自分を高めることができるようにする。

- ・学習のねらいを明確にした題材設定をし、身につけた力を実感出来るようにする。
- ・考えたり試したりして、音楽を楽しみながら学習の目標を達成することのできる学習活動の工夫をする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○素直な明るい声で歌を歌ったり、身体を使って表現することが上手にできる。</p> <p>●鍵盤ハーモニカはまだ初歩の単音を吹く活動であり、大きな個人差は出ていない。</p>	<p>鍵盤ハーモニカの指導では、使用する音が増えていくと、指づかいが大変になるため、練習の時間に個人差が出てくる。グループや全体指導の仕方を工夫していく。</p>	<p>耳慣れた曲の一部分の4小節から8小節の短い曲を使うなど慣れ親しむことも混ぜて練習する。交互に歌ったり、打楽器やけんぼんハーモニカを演奏したり、友達同士で発表し合う機会を多くする。</p>
2年	<p>○歌う事がみんな好きである。身体を動かしながら歌ったり、楽器を演奏したり、上手に表現出来る。</p> <p>●鍵盤ハーモニカの進度に大きな個人差があり、全体で合わせる事が苦手な児童がいる。</p>	<p>指使いや息の入れ方等、具体的な演奏方法を提示しながら、段階的に指導する必要がある。</p>	<p>黒板に鍵盤の拡大を提示したり、楽譜の板書の仕方を工夫したりしながら、まずは指だけで練習したり、歌いながら弾いたりする活動を段階的に多く取り入れ、指使いや吹き方を具体的に指導する。</p> <p>段階的な練習や反復練習を繰り返したり、友達同士で見合ったり教えあったりする活動を多く取り入れる。</p>
3年	<p>○明るい声でリズムカルに歌っている。</p> <p>●リコーダーにまだ慣れずに苦労している児童がおり、苦手意識も感じ始めている。</p>	<p>リコーダーに苦手意識のある児童は長く練習をしたり、リコーダーの指づかいを覚えるためのくり返しの練習に飽きてしまことが予想され、練習の仕方に工夫が必要である。</p>	<p>楽しく演奏できる短くて簡単なリコーダーの曲を多く用意して、達成感をもたせる。</p> <p>グループでの活動を増やして聞き合い、学び合いをする機会を増やす。</p> <p>個人やグループで発表する機会を増やす。目標をわかり易く示す。</p>

4年	<p>○明るくのびやかな声でハーモニーを感じながら意欲的に歌っている。</p> <p>●リコーダーは個人差がある。運指を覚えたり、低音を響かせることが苦手な児童もいる。</p>	<p>全体でリコーダーを合奏することは意欲的に取り組んでいるが、個人個人では演奏できていないことがある。声がけを多くして、指導を丁寧に行っていく必要がある。</p>	<p>リコーダー合奏、リコーダーと他楽器との合奏を楽しんで行う機会を多くする。</p> <p>リコーダーをどう演奏するのが良いのか、息遣い、運指、タンギングなど、もっと具体的に示し、個人練習、グループ練習での教え合い、聞き合いする中で楽しく演奏できるようにする。</p>
5年	<p>○皆で音の重なりや響きに気を付けて歌ったり、楽器を演奏している。リコーダーの演奏ではかなり全員が努力していた。</p> <p>●全体の中の自分を感じて歌ったり、リコーダーや楽器を演奏したりする事を苦手としている児童がいる。</p>	<p>クラスや学年での合奏は意欲的に取り組むことができる。さらに演奏を工夫してよりよくしようという意欲と主体性を喚起させていきたい。</p>	<p>グループでの合奏やクラス全体での歌、合奏の取り組みを通して、ねらいを明確にする事でクラスの中での“自分”も感じるように声掛けする。</p> <p>音楽を形成している要素（旋律、リズム、速度、強弱、音の重なりなど）に視点をあて、確認しながらクラスで合わせていく。</p>
6年	<p>○楽器の演奏に意欲をもって取り組んでいる。</p> <p>●自分のパート練習には前向きに取り組めても教え合ったり、周りの音楽を聴いて合わせたりするのが苦手な児童が多い。</p>	<p>音符を読むことは苦手だが音を楽譜通りに出すことは全体的に出来る。さらに演奏をよりよくしていくことについて、教師主導にはならないように声かけをして、児童が主体的に意見を交換させながら取り組んでいけるような工夫が必要である。</p>	<p>歌、合奏の取り組みでは、ねらいを明確にすると共に、グループ練習、全体練習での聞き合い、励まし合いの機会を増やし、皆で心地良く合わせられるような場の設定をするなど、雰囲気づくりをしていく。</p> <p>音楽を形成している要素（旋律、リズム、速度、強弱、音の重なりなど）に視点をあて、確認しながら表現・鑑賞を聞き合っていて楽しんでいく。</p>

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

児童が感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるように、造形あそび、絵や立体、工作にあらわす活動を図工の授業の中では、

- ・自分らしい発想や感じ方ができるようにさせる。
- ・形や色や材料から構想することができるようにさせる。
- ・形や色や材料を生かし、表しかたを考えて表すことができるようにさせる。
- ・作品などのよさを感じたり、話し合ったりすることができるようにさせる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく丁寧に作品づくりしようとする態度がみられる。 ○意欲が高く、集中して作品づくりに取り組んでいる。 ●はさみやのりの扱いが苦手な児童がいる。 	<p>意欲がとても高く、工夫しながら一生懸命に取り組むことができる。活動の途中で表現がうまくいかず、意欲が続かない児童がいる。支援をしながら児童のよさを認め励ましていく。</p>	<p>ねらいや取り組み方について、ポイントを絞って示し、活動の時間を多くとる。 進め方を知り、自信をもって取り組めるよう個別に声掛けをしたり全体に作品を紹介したりする。 スキルアップを重点におく題材と、造形あそび等の題材をバランスよく取り組む。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分らしい発想ができ、活動意欲が高い児童が多い。 ●時間にけじめをつけて活動できない児童がいる。 	<p>意欲的に取り組むことができ、意見も活発に出せるが、活動に夢中になってしまい片付けなどが遅れてしまう児童がいる。</p>	<p>作品を例示したり、進め方を掲示するなど、スモールステップで児童が理解しやすい工夫をさらに行う。 掲示物やタイマーなどを活用し活動時間を意識させる。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○話をしっかり聞くことができ製作に一生懸命に取り組んでいる。 ●今までの生活経験からかいたりつくったりすることが得意な児童と苦手意識を持っている児童の幅が大きい。 	<p>児童の発想、活動の幅を広げる材料や場の設定、苦手意識のある児童に対しての時間的な保証が十分でない。</p>	<p>児童の発想を生かせる題材や材料の設定、時間配分をする。 工夫している児童や発想のゆたかな児童の作品や頑張りを紹介することでそれらを共有したり、自信をもって活動することができるように励ます。それぞれの児童の発想を生かせるよう、表現したいことを言語化させながら思考に結び付けていき、また支援をする。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○発想が豊かな児童が多く、自分なりの表現を楽しんでいる。 ●発想を広げるあまりおさえたい内容を逸脱することがある。 	<p>おさえるべき学習内容と、自由に発想する部分が児童に曖昧に伝わっている。 数名の児童に、個別の支援が必要である。</p>	<p>おさえない学習内容と、各自が発想を広げる部分をわかりやすく示す。 楽しんで自分らしさを発揮できる雰囲気を大切にしつつ、その時間に学んだことを振り返り確かめられるようにすすめていく。</p>
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分らしい表し方をしたいと願って取り組んでいる ○友達の頑張りを認め合う雰囲気がある。 ●集中力や誠実さをもって頑張り抜けない児童もいる。 	<p>その時間のめあてがしっかりと伝わっていない。なにをどのようにどこまで取り組むのかしっかりと把握させる。</p>	<p>製作のポイントやコツを個に応じて示す。その児童らしい発想や頑張りを認め励ます。</p>

6年	<p>○発想ゆたかに楽しんで取り組む題材に力を発揮する。</p> <p>●こつこつと時間をかけて取り組む題材に苦手意識をもつ児童が多い。</p>
----	--

集中して長時間取り組むことが苦手な児童もあり、全体の雰囲気をつくっている。



その時間のめあてをしりつかませる。児童の発想が生かせる題材、材料や場の設定をする。

(8) 家庭科

家庭科の重点

- ・衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。
- ・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。
- ・自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

現状分析 (成果と課題)	
分析内容	
5年	<p>○初めての家庭科の学習であるが、調理、裁縫の単元では、興味・関心を持ち授業に取り組む児童がほとんどである。</p> <p>●家事手伝いの有無により、知識や技能に偏りがある。</p> <p>●技能面には特に個人差が多く感じられる。</p>
6年	<p>○調理や制作に関する興味・関心は高く、意欲的に授業に参加している児童が多い。</p> <p>●家庭環境により知識・理解や技能に偏りがある。</p>

授業改善プラン	
指導上の課題	改善案
<p>調理、裁縫以外の単元においても興味を持って取り組めるよう工夫を行う必要がある。</p> <p>作業のために必用な基本的な技能や知識を確認する必要がある。</p> <p>児童同士で関わり合いをもち技能向上を図る必要がある。</p>	<p>児童の生活に直結する学習であることを感じさせるとともに、体験的な活動を取り入れる。</p> <p>活動に関する視覚的な情報を提示し、安全に取り組めるよう配慮する。</p> <p>早く活動を終えた児童をミニ先生とし、学級全員の児童が活動の遅れがないよう指導していく。また、家庭学習でも授業でやったことを振り返らせ、定着させる。</p>
<p>授業で学んだことを、なかなか家庭での生活に生かすことができていない。</p> <p>調理や制作を行う際に、楽しんで授業に参加するだけに留まっている傾向にある。</p>	<p>授業を始める前にめあてを明確にして活動の目的を理解させる。</p> <p>授業で行ったことを家庭でも取り組むことができるような活動を取り入れて、授業で学んだことを家庭生活に生かすことができようにする。</p>



(9) 体育科

体育科の重点

体育や保健の味方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○全国平均と比較して、男女ともに走力、筋力、投力は平均を上回っている。 ●敏捷性はどちらも下回っている。	投力を高める運動遊びやゲームを取り入れて全体の体力を高めていく必要がある。	ゲームや、ゲームにつながる運動遊びを通して、投げることの楽しさや、運動をすることの楽しさを味わわせる授業をしていく。
2年	○全国平均と比較して、男子はほぼ同じである。女子は、柔軟性、筋持久力が上回っている。前年度と比較して、投力が上がっている。 ●男女ともに敏捷性が下回っている。	筋力を高めるために、力の負荷の大きい運動で敏捷に運動する必要がある。	準備・補助運動等で、素早く反応する運動遊びや速く切り換えて行うサイドステップの動作や片足ケンケン跳びを取り入れる。
3年	○全国平均と比較して、男女ともほぼ同じである。 ●男子は敏捷性、筋パワーが下回っている。女子は柔軟性、投能力が下回っている。	柔軟性や俊敏性を高め、筋力を向上させる必要がある。	準備運動の中にストレッチ運動を多く取り入れ、柔軟性の向上を図る。また、20m程度のおんぶ走りやケンケン足とびを行う機会を設ける。ボールゲームを行う際には、投げる機会が多くなるゲームをしていく。
4年	○全国平均と比較して、上体起こし、長座体前屈は上回っている。女子は、筋力、柔軟性が上回っている。 ●男女ともに走力、投力が下回っている。	運動の特性を理解し、技能を習得したいという必要感がもてるよう学習計画を立て、すすんで運動をする児童を育成する必要がある。	準備運動や体づくり運動を通して、巧みな動きをさせたり、運動の特性を味わいながら友達同士で話し合うことができる授業をしたりする。
5年	○全国平均と比較して、男子は筋力、投能力がほぼ同じである。女子は、柔軟性、筋力、敏捷性がほぼ同じである。 ●男女ともに、走力が下回っている。	持久力や走力を高めるために、体育科の授業だけでなく、休み時間等でも運動していく必要がある。	授業における運動量を十分に確保するための活動や、毎時間校庭を周回させていく。行間時間等で運動に親しませるような遊びなどを紹介し、運動に対する興味・関心を高めさせる。
6年	○全国平均と比較して男子は、柔軟性、筋力、走力が上回っている。女子は、柔軟性、筋力が上回っている。 ●男女ともに、敏捷性が下回っている。	運動に関する意欲と運動量に偏りがある。主体的に学習に向かう態度の育成が大切となる。	チームで相談して作戦を練る時間の確保をし、友達同士関わりあって運動することの喜びを感じさせていく。 単元の運動を休み時間にもできるようにし、運動の日常化を図る。